

平成28年度第1回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成28年5月13日（金） 午前10時～12時
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 粉川一郎委員長、植本崇委員、大和正明委員、玉井和幸委員、北村倫子委員、
大野定俊委員、浅賀博委員、桑田佳雄委員、牧野昌子委員、奥野不二子委員
(以上10名)
4. 事務局 飯塚参事、豊田主幹、伊藤、杉山
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 職員紹介
 - 3 議題
(1) 企画提案型協働事業（平成27年度実施分）の評価について
(2) 平成28年度企画提案型協働事業実施要領（素案）について
(3) その他
 - 4 閉会
7. 会議要旨

3 議題

- (1) 企画提案型協働事業（平成27年度実施分）の評価について

〔参考資料〕資料1-1、1-2、1-3

○道作古墳群歴史広場の維持管理事業

《事務局報告》

資料1-1に基づき、実施団体と協働担当課がそれぞれ行った事業に対するプロセス評価を報告。双方とも事業の評価は概ね一致していることから、良好なパートナーシップのもと円滑に進行したと思われる。

《委員意見》

- ・14pの事業計画書にアンケートを実施すると記載されているが、実際に行ったのか。本当に重要なのは市民からの評価であり、事業の今後に向けてもアンケートの内容は大変重要であると思う。→イベントの際に実施したと聞いている。アンケート結果を市に提出したかは未確認。（事務局）
- ・ここで報告されているのは協働のプロセス評価である。今後は事業の目標や成果も見える形にしていくことが大切であり、そのためには報告書の書式を見直すことも必要ではないか。
- ・2pのQ15. 協働事業実施中の打合せ記録について、市は残しているが、団体側は残していない点は気になる。また、数値などの具体的な目標があつてはじめて成果が見えてくるのであり、評価

も可能となる。プロセス評価だけでは本当の事業評価とは言い難い。

→打合せ事項を共有する機会があったかどうかが問題である。なかったとすると、課題の共有が「できた」としたのは評価が甘いと判断されてもしかたがない。(粉川委員長)

- ・事業計画書の項目に即した形で報告書の書式を整理していく必要がある。

- ・イベントについては、参加者の年齢層などの情報を把握し、計画を練っていくことが重要である。

→配布資料の内容では事業の中身が見えてこないという指摘が出ている。市にはこういった資料が提出されているのか。(粉川委員長)

→今回配布した資料は概ね担当課に提出された完了報告と同じである。ただし、アンケート結果などについては別個に担当課に提出されている可能性がある。(事務局)

→各委員からの意見はもともとであり、今回提出された完了報告は協働事業の報告書としては不十分と言わざるをえない。市民に対する説明責任も果たせたとはいえない。書式の問題もあるが、公金を使った事業を提案し実施している以上、実施団体は責任を持って報告を行うべきで、また担当課もそれをサポートしていくことが求められる。この点は強く指摘しておく。(粉川委員長)

→報告書の書式については改善の方向で検討を行いたい。実施団体や担当課に対しては毎回議事録を送付しているが、今回出た意見は直接伝え、意識付けを図っていききたい。(事務局)

- ・協働事業の実施計画に対し、協議による合意をへて実施に至るといふ協働のプロセスがわかると、委員会としても評価がしやすくなってくるので、そうした記録のとり方を担当課に周知していただきたい。

→報告のあり方については、今回の委員会の意見を踏まえ検討していただきたい。(粉川委員長)

○竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

《事務局報告》

資料1-2に基づき、実施団体と協働担当課がそれぞれ行った事業に対するプロセス評価を報告。双方とも事業の評価は概ね一致していることから、事業実施7年目を迎え、良好なパートナーシップのもと円滑に進行したものと考えられる。

《委員意見》

- ・2pのQ12. 協働事業実施中の報告や現地確認が1回しか行われておらず、Q15. 打合せの記録も残していない。事業が長年継続していることによるなれ合いがあるのではないか。

- ・3pの総括に事業継続の成果や担当課の意向を記載するのは、市民活動推進課が事業継続のお墨付きを与えているようにも見える。総括にはなじまない内容ではないか。

→協働のパートナー双方からヒアリングしたことを記載しているだけだが、記述がふさわしくないということであれば今後は控えたい。(事務局)

- ・同様の取り組みを行っている団体があるとする、公平性に欠けるような記載ととられてしまう可能性がある、総括の中ではこうした記載は控えるべきだと思う。

- ・以前の記述はどうだったのか。(粉川委員長)

→以前から同じように記載してきた。これまでは、プロセス評価だけでは見えてこない事業の実態を補足することを意図して記載してきたつもりである。(事務局)

- ・企画提案型協働事業全体の評価を明示していくことは必要かもしれない。しかし、個別の事業についてはもう少し別の方法が必要ではないかと感じる。

- ・市民活動推進課の総括は、個別の事業全体に対する評価ではなく、評価シートの個々の記載に対し協働の視点から評価を行っていくことが望ましい。
→協働のパートナー双方の考えを評価シートに記載することは必要だが、市民活動推進課が第三者的な視点からポジティブに総括するのは時代の趨勢からまじまじと思われる。来年からは、事業の事実関係を重視したより冷徹な視点で総括部分を記述していくことは可能か。(粉川委員長)
- 了解した。(事務局)
- ・毎年同じ事業内容で提案が行われ、市も必要な事業と認め、市民も喜んでいる。そうであれば、なぜ企画提案型協働事業ではなく、担当課で直接予算をつけて実施しないのか。個人的には市にとって有益な事業だと認識しているが、それだけに繰り返し審査のテーブルにもってこられることに違和感を覚える。
→担当課である都市整備課には委員会の意見を伝え、また市として今後そうした方向性で進めていく。(事務局)

○印西市木下地区歴史講座

《事務局報告》

資料１－３に基づき、実施団体と協働担当課がそれぞれ行った事業に対するプロセス評価を報告。双方とも事業の評価は概ね一致していることから、事業実施４年目を迎え、良好なパートナーシップのもと円滑に進行したと思われる。

《委員意見》

- ・新聞によく取り上げられているが、その内容に見合うだけの成果が挙げられているのか疑問がある。参加者はリピーターが多いのか知りたい。高齢の参加者が多いが、若い人向けの企画が必要ではないか。毎年同じような事業内容では手詰まり感が否めない。
→参加者のデータについては昨年度の公開プレゼンテーションで団体が詳しく説明していた。その際には、歴史講座で高齢の参加者が多いのはやむをえないとの意見が委員からあった。事業内容についても、委員から次も同じであれば審査は厳しくせざるをえないとお話があったと思う。特別講座参加者のうち、リピーターは３分の１程度と聞いている。定期講座の参加者が１０人程度という点については、活用する蔵のキャパシティとの兼ね合いがある。(事務局)
- ・企画提案型協働事業の提案には新規性が求められる。自分たちが新たにやりたいことがもっと企画として出てきてほしいと思う。
- ・１１pの冬期講座について、リピーターを除くと新規の参加者は実際より少なくなると思われる。マスコミの露出は多いが、それに見合った活動になっていくといいと思う。
- ・１５pの事業計画書に、夏期講座は小・中学生や保護者対象となっていたので期待していたが、結果はそうならず残念である。今後は市民に広がりを見せていくような活動になっていくことが重要である。
→提案内容に対するアウトプットへの意識が希薄という点は、一般的にNPOの大きな課題と指摘されている。事業計画書は、提案者と発注者の間で履行されるべき契約と同じであるとの認識で事業を実施してもらわないといけない。(粉川委員長)
- ・審査会や委員会の意見を団体や担当課が確認しているとしても、それが活かされていないように感

じる。成果報告会などの場で直接市民に成果を伝えることも含め、出された意見をきちんと活動に反映させていく仕組み作りが必要である。

→成果報告会は新しい実施要領で実施するとなっている。(粉川委員長)

→過去の経緯や委員会の意見を踏まえ、担当課、実施団体、市民活動推進課の三者できちんと意見交換を行い、次のステップへと進めていきたい。(事務局)

(2) 平成28年度企画提案型協働事業実施要領(素案)について

〔参考資料〕資料2

《事務局説明》

- ・資料2に基づき、前回の委員会で修正意見のあった部分を中心に説明した。今回の素案で承認を得られれば、6月1日から市民に向け募集を開始する。

《委員意見》

- ・13pの「協働の機会提案書(アイデア提案用)」が自由提案型の申請書類ということか。
 - 13pは「自由提案型の新規提案」及び「指定テーマ型」の申請様式である。指定テーマ型は単年度事業なので、仮に同一テーマの募集が続いたとしても、毎年新規のアイデア提案としての扱いとなる。(事務局)
- ・7pの提案フローでは、継続事業は平成28年度の事業実施から1回目とカウントし、平成30年度で3回ということになるが、そういう理解でよろしいか。(粉川委員長)
 - ご指摘のとおりである。(事務局)
- ・28pの「アイデアのたまご」はいいアイデアだと思う。市長賞のようなインセンティブをつけたらどうか。
 - 実施するのであれば、アイデアに対する表彰よりも、実際に取り組まれている協働事業から優先して行った方がよいかもしれない。(事務局)
- ・アイデアのたまごを育て、実現していく仕組みを考えていただきたい。ある程度提案が出てきた段階で、表彰についても企画していくとよいと思う。
- ・まずはアイデアを実現させていく方法を考える必要がある。
 - アイデアのたまごを実現させるには労力がある。そこに至るまでには表彰の仕組みを作っていくのも一案であるが、予算を伴うものでもあるので、今後の検討課題とさせていただきたい。(事務局)
- ・アイデアのたまごはいつから実施する見込みか。(粉川委員長)
 - 今回の募集開始に合わせて周知を図っていく予定である。(事務局)
 - 応募件数などを報告いただき、活用方法を検討する機会を今後委員会の場で設けていただきたい。(粉川委員長)
- ・提案されたアイデアを関連する各課に振り分けて検討してもらおうと、さらに良い知恵が出るのではないか。
- ・アイデアのたまごの内容をみると、ある程度企画が固まっているが不足があって実際の提案に至らないものを対象にしている。思いついたアイデアを自由に提案するような趣旨にはなっていない。
 - 実際に募集してみないとどういったものが出てくるのか、どの程度の件数が出てくるのかわからない。まずは様子をみて、それからあらためて検討することにしてはどうか。(粉川委員長)

- ・指定テーマ型は、市からテーマ名だけが出されるのか。
 - ひとつの指定テーマにつき、4 p の様式に具体的内容を示して募集される。示された指定テーマを踏まえ、13 p の「協働の機会提案書」により提案者が応募する形となる。(事務局)
 - 他の自治体でも、テーマの内容を細かく指定してくるケースと大きなテーマで出してくるケースがある。そうしたバリエーションはあってもよいと思う。(粉川委員長)
- ・これまでの継続事業は、7 p の提案フローにしたがえば平成30年度で終了するという事によろしいか。
 - 自由提案型としては平成30年度で終了となる。ただし、類似の事業を市が指定テーマ型として募集するケースは制度上ありえる。(事務局)
- ・17 p の経費内訳書について、協働事業の趣旨を考えると、「市から団体への委託費」と「無償分を含めた事業経費」の記入位置は上下入れ替えた方が適当ではないか。
 - 了解した。(事務局)
 - 記述の表現については事務局で修正していただき、委員長確認による承認という形で一任いただきたい。(粉川委員長)
- ・10 p の無償労働力換算金額とは、人件費は千葉県最低賃金以上で積算するということか。
 - そのとおりである。(事務局)
- ・17 p の経費内訳書にある「提案者が負担するその他の材」とはなにか。
 - 無償労働力や無償機材等以外の提案者負担分を記入する欄と考えられる。(事務局)
 - その点についても事務局で確認の上、委員長に報告する形で一任いただきたい。(粉川委員長)

《検討結果》

- ・素案について、今回指摘のあった部分を事務局で修正し、委員長確認とすることで承認された。

4 その他

- ・印西市市民活動推進委員会の次回日程について
 - 日時：6月17日（金）午前10時から 会場：印西市市民活動支援センター
- ・牧野委員より退任のあいさつ

以上